

第3回亀岡市学校規模適正化検討会議 議事摘録

■日時

平成27年1月27日（火）14:00～16:20

■会場

亀岡市役所3階 302・303 会議室

■議事

1. 開会
2. 協議・検討事項
 - (1) アンケート調査の集計結果について
 - (2) 意見交換
3. その他
4. 閉会

■意見交換発言内容

（事務局説明「アンケート調査の結果について」、文科省「適正配置等に関する手引」）

会 長：大規模校、中規模校、小規模校に分けて強み・弱みを検討してほしい。規模は学級数で区分するのか？

事務局：小規模は11学級まで、標準は12～18学級、大規模は19学級以上を概ねの基準とする。

委 員：全校30人では適正とはいえないが、すぐに統合するのではなく、バスで、30分で行けるような小規模校の特性を活かすこと（例えば英語）が検討できないか。経営上の関係からは統合が良いことはわかるが、市内どこからでも通学できるように、市全体をオープンにして校区を見直しすればどうか。

会 長：通学時間はアンケートでも多い30分くらいまでが一つの目安と考える。

委 員：学校関係者は小規模校でも大きな問題は無いという考えがある。統廃合ではなく、全体を見る中で配置を考えるべきである。

委 員：先日小学校の参観に出た。各学年1～5人だが、ほとんどの子どもが活発に手をあげている。落ちこぼれは少ないのではないか。障がい児も2人いるが、屈託なく授業を受けている。同級生が車いすを押したり、運動会にも参加したりしており、大規模校にない温かみがある。また、近くで住宅開発等の計画がある場合は、それを校区に編入していくと学校規模の拡大が可能となる。

委 員：子どものころ小規模校で1クラスだった。そのころイヤだったことは「〇〇さんの下の子」というような呼ばれ方で窮屈さを感じたが、一方で大人に「おかえり」と言われるところは良かった。中学校で大規模校へ行き、先祖代々の地域に育ったので外に出たいという思いがあったから、良い方にとったのかもしれないが、世界が広がった体験をした。

委 員：アンケート結果の理想のクラス人数は、一般市民と保護者、学校関係者で違い、学校関係者が一番少ない。学校関係者に聞きたいが、子どもの個性を伸ばすには丁寧に教えるために少ない人数のほうが良いのか。

委 員：子どもの様子や育ちの違う子が増えていることを考えると、19～25人くらいが個別指導も個性も伸ばしやすいと言える。

- 委員：中学校は少なければ良いとはならない。1クラスだけだと小学校の人間関係を崩せないし、集団活動ができなくなる。35人を超えると難しい部分もあるが、小学校よりは人数が必要で30人程度必要である。またクラス替えでも人間関係が広がっていく。
- 会長：少ない人数だとスポーツの集団競技は成立しないし、人間関係で切磋琢磨できないということもある。
- 委員：小さな、複式学級もある小学校から7クラスの中学校へ進学した。小川から大海へという感じだった。田舎で生まれ、育ち、一生を終わる人はいない。大人になるためには、どこかで揉まれないと社会を乗り切る力がつかないのではないかな。
- 委員：保育所、小学校、中学校と同じ友達ですごす人もいる。良いのか悪いのかわからないが、こじれると大変になる。どこかで他の子どもとも触れ合うために、あえて幼稚園、保育園の時代に違うところへ行かせる人もいる。運動会で組体操ができないとか、小規模校では、校長先生が生徒の名前も家の状況も知っているのは良いのか悪いのか。理想は適度なものだが、うまく出来ないだろうか。古い地域の事情はわからないが。
- 委員：小規模校は極端に少ない学校が問題であろう。数字を見ると少ない同士を統合するという話になるが、人を増やす努力も必要ではないか。地域の協力が必要。自然の中で暮らしたいという人はいるが、土地利用、インフラ等の受け皿が不足している。
- 委員：小規模校の子どもは人間形成時に問題があるのか？成長すると大きいところにもみこまれていくのだが、人間的に大きな問題が出るのか？35人が何を持って良いのか、効率なのか、人間形成なのか。
- 会長：30～35人は国際社会が言っていること。これまで日本は40人だった。今は35人学級となっている。ただし教育学的に妥当な数字なのかという点についてのデータは無い。少人数学級で分の悪いことは、共同する力「チームワークリテラシー」を国際社会では求められている点で、学力のひとつの柱であるとはいえる。
- 委員：大規模、小規模で色々ある。人口減少の時代なので、数だけで統廃合していたら増減があったときにまた見直ししないといけない。例えば東つつじヶ丘の一部が南つつじヶ丘へ校区変更されるなどとなったときに、自治会としてはどう考えれば良いのか。あくまでも子どもが優先なので横においておくべきことなのか。
- 委員：大小の強み、弱みが相反し、答えが出ない。小規模校は学校行事が負担になるが手厚く対応してもらえる。大規模校は、勉強がわからないままに先に進んでしまうこともある。読めば読むほどわからなくなる。
- 会長：SWOT分析には中間がある。極端なもの、どちらかを求めているわけではない。
- 委員：大規模校で育ち、人数が多かった。そのため小規模校へ遊びに行くとうれしかった。空間的な余裕があるし、大人がやさしかった。アンケートの「現在の学校配置の適正状況」の項目では「一部に見直し必要」という人が多い。東つつじヶ丘の体育振興会や主婦等の意見を聞くと、配置は偏っているという意見もあった。小規模校へはバスで行く授業をやるとか、人を呼びこむ行事をやるとかを地域をあげてやっていかないといけない。どっちがということではない。
- 会長：通学区の問題も正解は無い。「現在の学校配置の適正状況」の項目の「一部見直しが必要」が多いのは重要な課題。

委員：前職は120人の小学校の教諭だった。そこで5年生の担任をもったとき、子どもが顔見知りでその集団に担任が入れていただいたという気持ちを味わった。少ないからこそできることがあり、一輪車やパソコンは地域の人が教えてくれた。その次にはひとクラス40人以上の大規模校で、1日いてクラスで10人は話すことがなかった子どもがいた。一方、ソフトボールは男子だけで4チームが出来て子どもと共有する経験ができた。一概にどちらが良いとはいえないが、人との距離感には適度な距離感があるし、空間的な余裕の違いもある。狭さ広さ両面で。

委員：亀岡小学校出身だが、学校が一杯になって城西小学校へ移り、11クラスから2クラスになった。11クラスのときは他のクラスの子が誰か分からなかったが、2クラスになって顔がわかるようになった。人数が多くて少なくとも子どもも親も対応できないことがあるし、少なすぎても友達の輪ができないので難しい。

会長：行政の経営効率からみれば答えは簡単。ただ経営の合理化だけでは通じないため、答えはなかなか出てこない。難しい。

委員：統廃合ありきではない。小学校18校、中学校8校で大規模校も小規模校もある。亀岡市の子どもを育てるのにどうすれば良いか、複式学級と40人学級で育った子の違いはあるのかという実態をさぐるべきではないか。論理はしっかりとすべきである。

委員：「学校規模適正化」は、適正でないから行うもの。市の姿勢は、「効率化」や「統廃合」ありきではないが、我々が統廃合するための露払い的な役割ではないか。統廃合が進むと小規模自治会長は自分の地域の核が無くなると警戒している。大規模校、小規模校には一長一短あり、学校関係者は人数が少ないほうが教えやすい、「教える」意味では落ちこぼれも拾えるが、摩擦がないので競争心が生まれない井の中の蛙になり、揉まれる方が良いこともある。財政的には統廃合は致し方ない。小規模の良さも残していきたい。教育力は大事で、金は多少かかっても小規模校も残していく。今は答えは無いが、真ん中で落ち着くようにするのが自分たちの役目か。

委員：小学校、地域の実態をもっとみていくべき。

会長：大事なことは、①経営合理化で小規模校を単純につぶさない、②小規模校の特徴を活かすことを丁寧に、③市全体のオープン化、市全体からみること、④学区改変、現状にデコボコがあるのでは。

委員：小中学校の現状をみると超過密から複式まであまりに差がありすぎる。片方の課題解決は無理で、子どもの教育を改善することに絞るべきである。統廃合の効果としては、高田中学校が一貫校になり、施設一体型の9年間を1施設で教育することにより、低学年時は1担任、高学年からは中学校教師も加わった複数担任で多様な価値観を学べるよう変えていく。

適正化には人数規模の問題がある。8中学校のブロックをベースに教育活動を高める方策を考える必要がある。児童数の状況によっては校区の定期的な見直しは必要で、柔軟に変更できるようにすることや適正規模のために施設を一体化にするなど。小規模小学校から大規模中学校へ進学すると、ショックは実際にある。

会長：子どもが生きる力をどのようにつけるかが重要。大規模校の問題は？

委員：大規模校で育った。教員時には亀岡中学校は13クラスであった。同じ教科の教師3人

で1学年を教えたが、定期テストがあるので授業の進捗度合等レベルをあわせるのに苦労した。クラブ活動は体育館やグラウンドが狭く全クラブが同時にできないので、前後に分けて使っていた。

会 長：私が勤めた学校は最高で4千数百人いたことがある。

委 員：大規模校は都市部にあって家庭環境も複雑化している。先生も人数が多いと家庭への配慮はなかなか行き届かない。きめ細かく指導ができる等の適正化を図るべき。

委 員：大規模校で育った。多様な人がいるので楽しく、いじめがあっても他のグループに逃げたり助けてもらったりできる。現在、人口増の学区では職員室の机が足らないなど、細かい問題もある。

委 員：P T Aは学校規模に関わらず本部役員の数は同じなので、大規模校では役に当たらない保護者が増え、意識や関心が低いので協力してもらえない人も多い。小規模校は当たりやすいので反対に意識が高くなる。

会 長：大規模校では、P T A活動の難しさもある。

委 員：大規模校は東の方の京都に近い地域だが、一方、若い人は北部地域から出てきて若い人が増えてくるという傾向も。学区が変わると兄弟で別の学校に行くのは困る。こういう問題は学区変更の度に問題が起こる。地域としては大規模よりも小規模のほうが、影響が大きい。

会 長：全国的にも大規模校より小規模校が問題になっている。「心のふるさと」がつぶされることも問題。

委 員：入学式や卒業式に出席するが、不登校が2桁程度いる。不登校の子どもは小規模校にはいるのか？

委 員：私の地域では全校73名で、不登校ゼロ、学力テスト高得点、駅伝1チーム／校しか編成できないが、上位に入っている。

会 長：親や周りが手をかければ子どもは育つ。小規模校の子どもは親、地域、周りから温かい目をかけてもらっている効果があるのだろう。

委 員：未就園の親子が集う場を持っているが、そこでは他人からの愛をどれだけ注げるかが大きい。地域の人の声掛けが子どもに良い影響を及ぼす。小学校とは異なり幼稚園、保育園は選べるが、大きいところが良いという子と、小さなところが良いという子がいる。別院の子どもは素晴らしい美しい心を持っているが、別院はあまりに遠いため通えない。小中学校の通学区も不登校などの子どもの状態にあわせて柔軟性をもたせられないか。

会 長：学区の自由選択制は東京都で実施しているが、希望が偏るなど、競争が起こりやすい。220～230人の学校が300人になったり、逆に150人が7人になったりと問題が大きい。

委 員：他所から留学ができる制度、施設があれば良い。亀岡中学校から別院中学校へ行くとか。

委 員：高槻市の榎田小学校は特色のある学校づくりで、市内市街地からの通学者が増え、学校が継続している。小規模校だから統廃合するというのはない。小規模特認校制度を検討してほしい。

会 長：そういう制度をアメリカでは「マグネットスクール」と呼ぶが、交通の問題があり、スクールバスの運行が必須である。また中津江村(大分県日田市)では小学校を統合して、スクールバスで集める代わりに全寮制にしている。

委員：かつては疎開があった。それも留学の一種。

委員：アンケートの「通学時間等について」の項目の通学距離は小学校でも 6km 以上もあるが、実際にはあるのか？

事務局：実際にもそういうところはあります。

委員：小規模、大規模いずれも課題があることが改めて理解できた。現状のままで良いことはなく、どこかで形にしていけないといけない。学校規模適正化のメニューは校区変更、小中一貫校、オープンスクール等各種ある。事務局で事例を整理し、大規模小規模にはこんな方法が良いという議論を次回にしたらどうか。

委員：メニューを出す前に地元地域にヒアリングし、地域が何を希望しているかをすべきでないか。

委員：地域の意見を聞くこともいずれ行うが、この会議で事前に勉強して、この地域にどういうアプローチをしたら良いかを検討すればどうか。

委員：地域外の人間がよその地域のことはわからないので、平行して地域の意見もくみとってほしい。

会長：次回は、具体的な方策として知恵を出す場を持ちたい。本日はこれで終了としたい。

事務局：具体的にどの学校をどうこうするというのではなく、全体として大規模校、小規模校にどのような方法があるか等を検討頂きたい。